

# 要旨

## I. 目的

本研究の第一の目的は、第2子以降の子どもを出産する女性（以下、経産婦）に向けた子育てや生・性に関するブックレットを作成し、ブックレットを読む前後の比較からブックレットがもたらす影響を明らかにすることである。第二に、経産婦、専門家からブックレットの有用性や修正に向けた示唆を得ることとした。

## II. 方法

ブックレットは、「きょうだいができること きょうだいを育てること 生・性を伝えること」というタイトルで、A5版、オールカラー20頁のものを、既存資料や専門家のスーパーバイズを基に作成した。ブックレットの評価は、研究者が作成した全52項目の質問紙を用いて、『新しい家族を迎えることに対する態度(29項目)』、『生・性を伝えることに対する態度(10項目)』、『社会資源の活用能力(13項目)』についてブックレットを読む前後に測定した。また経産婦と専門家から、ブックレットの内容・様式・有用性について、選択肢と自由記載によるデータを得た。本研究は聖路加国際大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した（16-A066）。

## III. 結果

経産婦55名から研究協力の同意を得て、そのうち44名から事前事後両方の質問紙への回答が得られた。ブックレットを読む前後を比較し、『新しい家族を迎えることに対する態度』（ $MD=16.02$ 点,  $t(43)=15.55$ ,  $p<.001$ ）、『生・性を伝えることに対する態度』（ $MD=5.50$ 点,  $t(43)=9.63$ ,  $p<.001$ ）、『社会資源の活用能力』（中央値変化量6.50点,  $p<.001$ ）において、得点は有意に上昇していた。また前後の点数を比較し、1点以上の上昇が見られた項目は全体で6項目あった。最も変化量が大きかった項目は、“帝王切開でうまれることについて、どのように子どもに伝えたらよいか分かる”（+2.07点）であった。一方、前後で点数が下降した項目は、“上の子とどのように関わったらよいのか分からない”（-0.03点）の1項目であった。残りの51項目では、全てにおいて点数の増加が認められた。

経産婦と専門家からは、それぞれブックレットの有用性について9割以上の肯定的な評価が得られた。ブックレットの様式に関しては、ブックレットの大きさ、文字の大きさ、色使いやイラストの使い方といった視点から、複数の修正に向けた課題が明らかとなった。

## IV. 結論

「きょうだいができること きょうだいを育てること 生・性を伝えること」ブックレットは、経産婦の『新しい家族を迎えることに対する態度』、『生・性を伝えることに対する態度』、『社会資源の活用能力』を肯定的に変化させた。また、経産婦、専門家ともに、ブックレットの有用性に関して9割以上から肯定的な評価を得ることができた。今後より有用性を高めていくためには、特にブックレットの様式の観点から、日常的に子育てや家事に追われ、心身ともに疲労しやすいと考えられる経産婦の特徴に配慮した、見やすく、分かりやすいブックレットに修正していくことの必要性が示唆された。